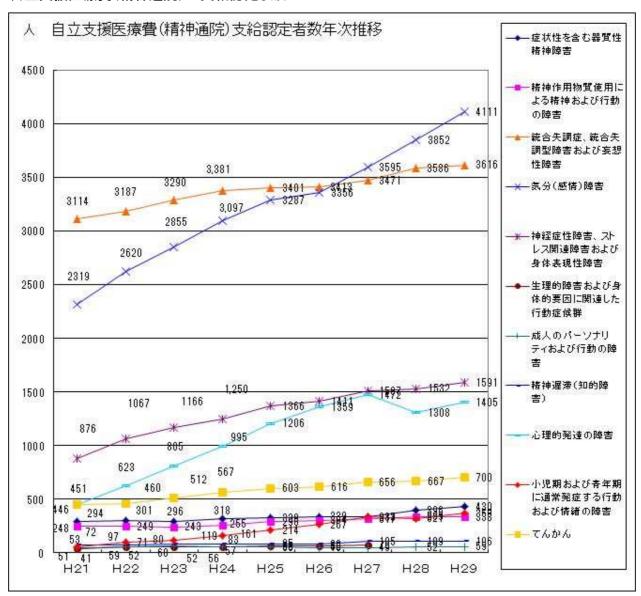
# 岡山市の精神保健医療の現状

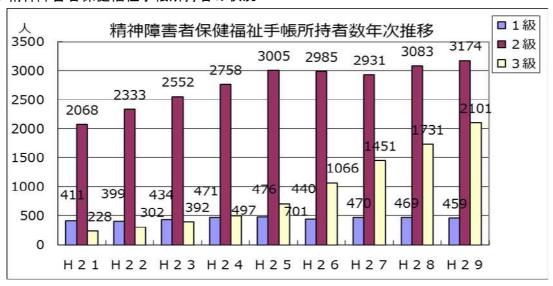
平成31年1月9日 岡山市保健福祉局保健福祉部 保健管理課

# 岡山市の精神保健医療の現状

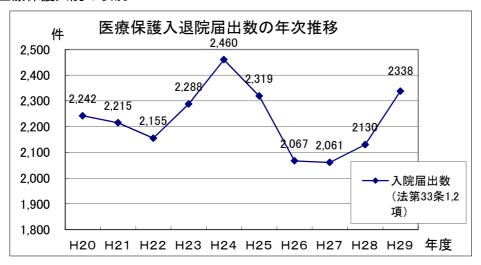
#### 1. 自立支援医療費(精神通院)の支給認定状況



#### 2. 精神障害者保健福祉手帳所持者の状況



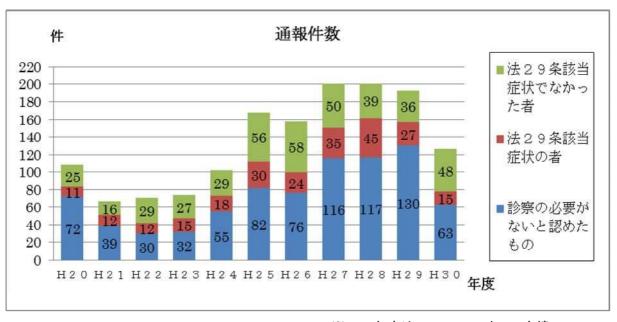
## 3. 医療保護入院の状況



## 4. 措置入院の状況

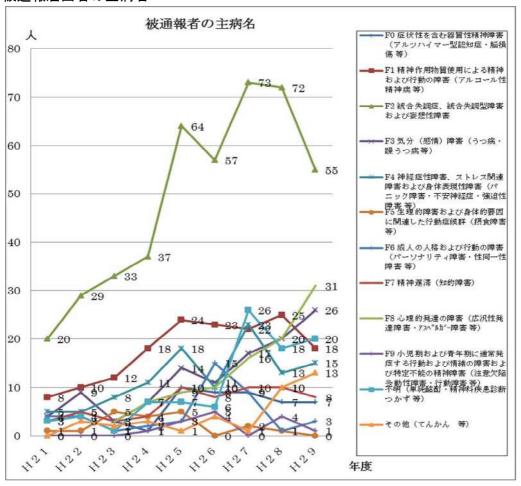
## ① 通報等の処理件数

META (107C-1113X			診察を受けた者					
年度	申請通報 届出数	診察の必要がない と認めたもの	法29条該当症状 の者	法29条該当症状 でなかった者				
H21	67	39	12	16				
H22	71	30	12	29				
H23	74	32	15	27				
H24	102	55	18	29				
H25	168	82	30	56				
H26	158	76	24	58				
H27	201	116	35	50				
H28	201	117	45	39				
H29	193	130	27	36				
H30(4/1~11/30)	99	63	15	48				

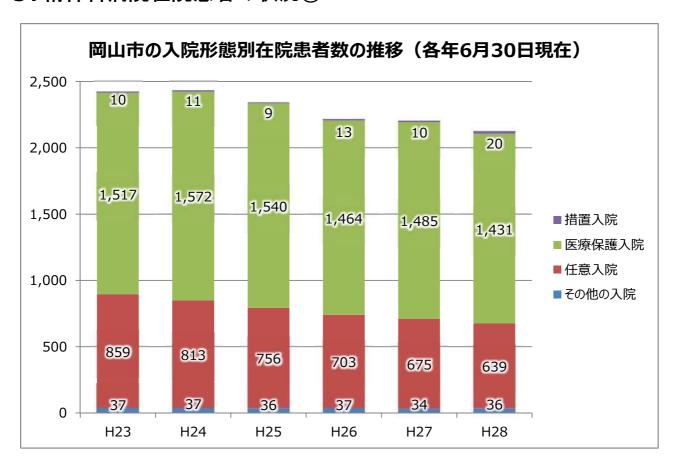


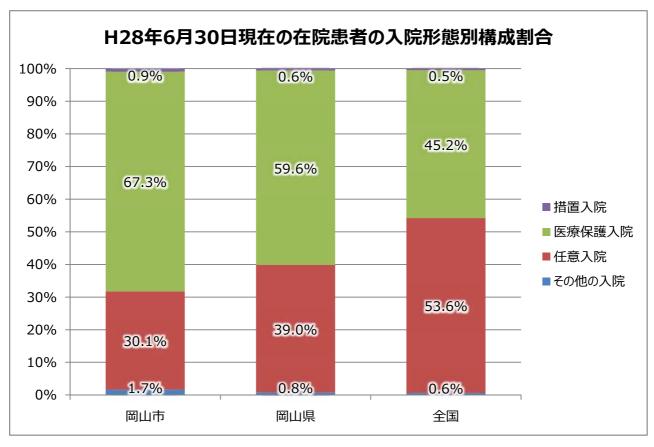
※H30 年度は 4/1~11/30 までの実績

## ④ 被通報届出者の主病名



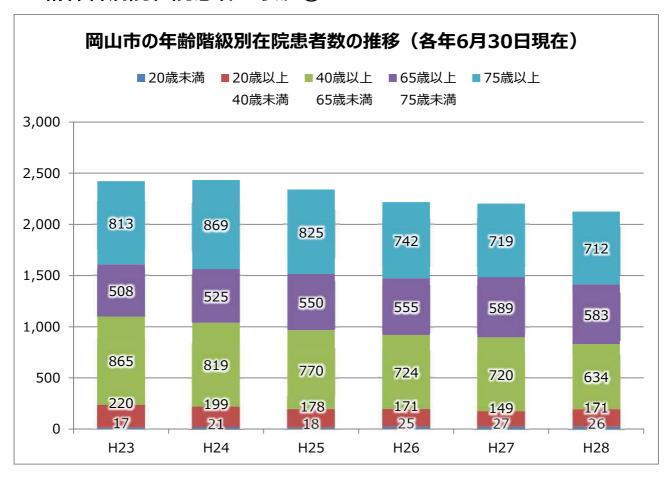
# 5. 精神科病院在院患者の状況①

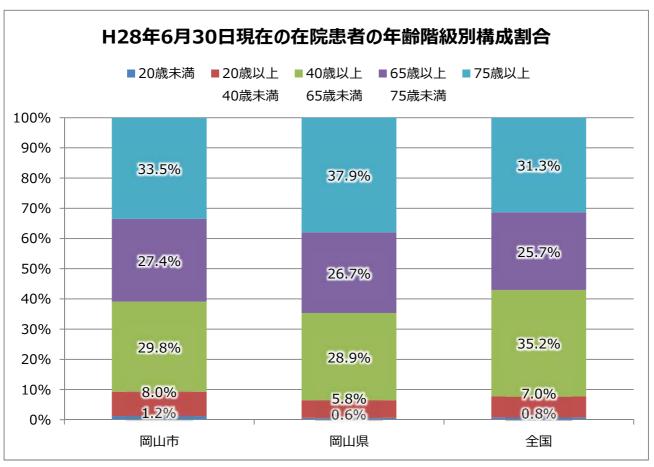




資料: 厚生労働省「精神保健福祉資料」より岡山市作成

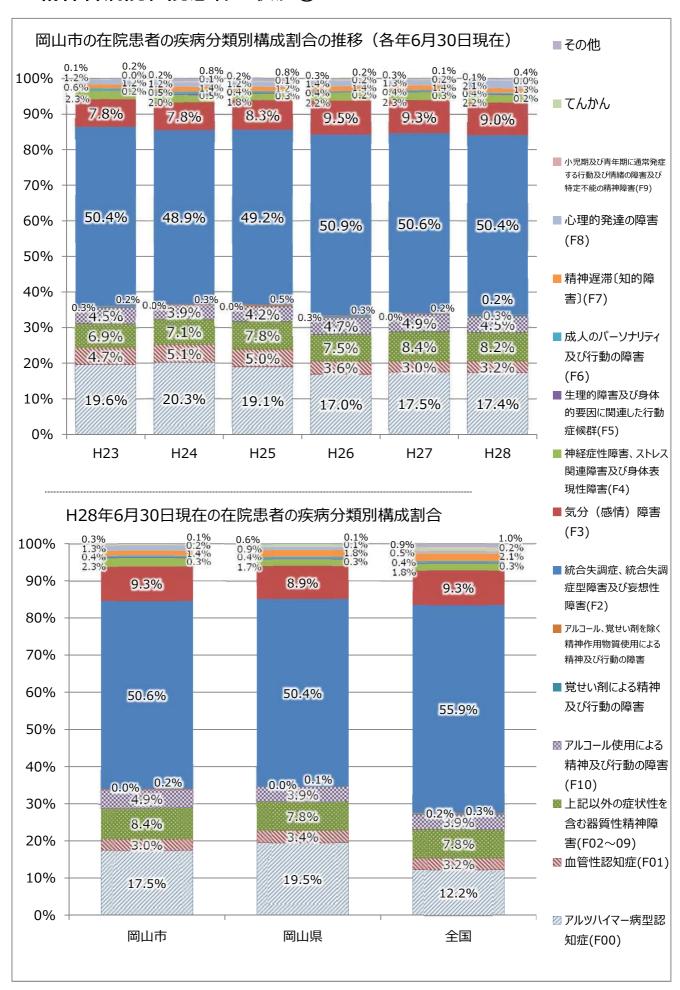
## 6. 精神科病院在院患者の状況②



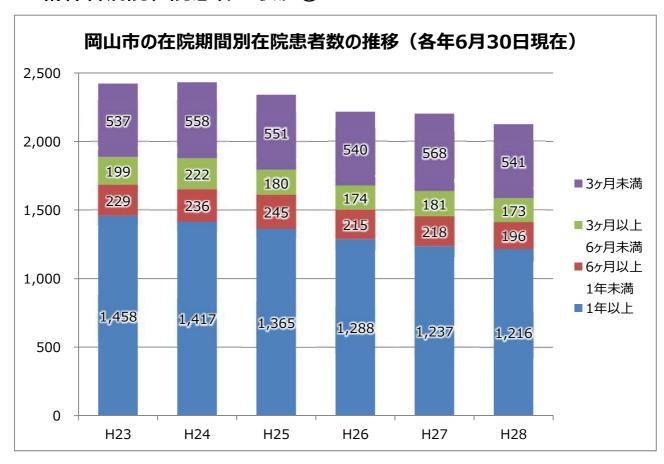


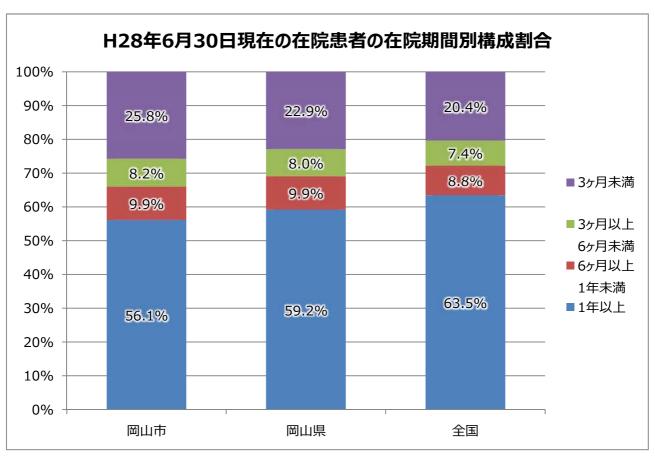
資料: 厚生労働省「精神保健福祉資料」より岡山市作成

## 7. 精神科病院在院患者の状況③



# 8. 精神科病院在院患者の状況④





資料: 厚生労働省「精神保健福祉資料」より岡山市作成

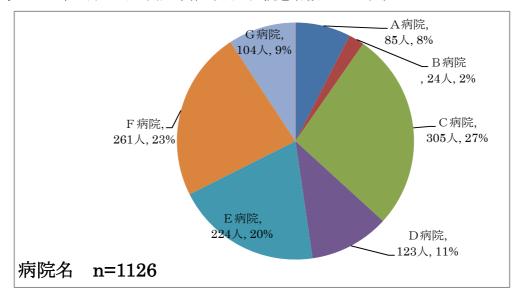
## 9. 平成 29 年度 岡山市精神科病院入院患者調査 結果

## (1) 対象者数

市内 8 病院から調査の回答が得られた。(回答率 100%)

うち、1 病院は「該当者なし」との回答であった。残る 7 病院から「1 年以上入院を継続している患者」はあわせて 1126 名との回答を得た。

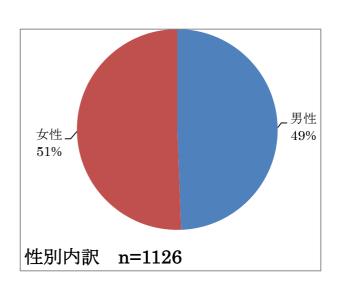
(参考: H29年8月31日時点の岡山市内の入院患者数 2063人)



病院別内訳ではC病院が最も多く 305 名(27%)、次いでF病院の 261 名(23%)、E病院の 224 名(20%)であった。この 3 病院で全体の 70%を占めていた。

### (2) 性別

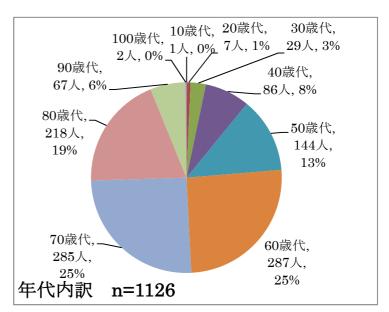
	n=1126
性別	人数
男性	556
女性	570



男女に大きな差はなかった。

(3) 年代

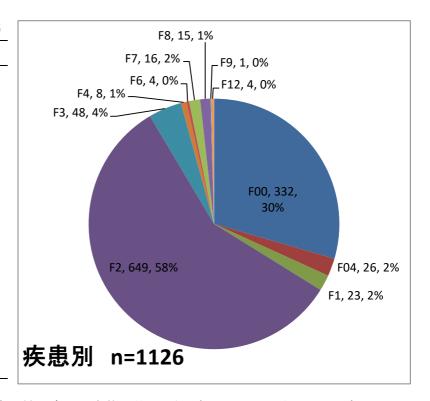
	n=1126
年代	人数
10 歳代	1
20 歳代	7
30 歳代	29
40 歳代	86
50 歳代	144
60 歳代	287
70 歳代	285
80 歳代	218
90 歳代	67
100 歳代	2



年齢別では 60 代、70 代が最も多く 25%を占めた。次いで 80 代の 19%となり、長期入院 患者の高齢化がうかがわれた。

## (4) 疾患別

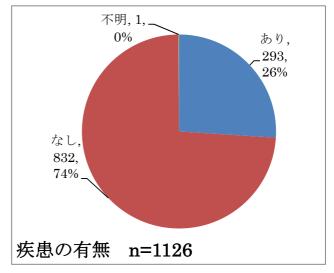
	n=1126
Fコード	
F00	332
F04	26
F1	23
F2	649
F3	48
F4	8
F5	0
F6	4
F7	16
F8	15
F9	1
12	4
13	0



疾患別では **F2** 統合失調症が最も多く、全体の約 57%を占めていた。次いで **F0** 症状性を含む器質性精神障害が約 30%を占めていた。

### (5) 日常生活に支障をきたしている身体疾患

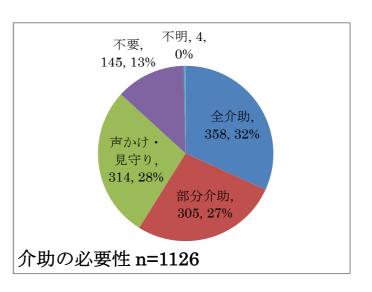
	n=1126
疾患の有無	
あり	293
なし	832
不明	1



日常生活に支障をきたしている身体疾患を有する人は293人(26%)であった。

## (6) 日常生活における介助の必要性

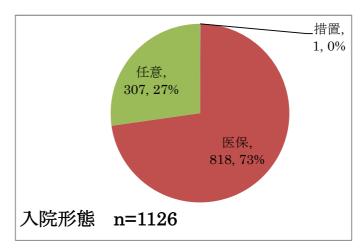
358
305
314
145
4



全介助が最も多く全体の 32%を占めていた。部分介助も含めると約 57%の方が何らかの 介助が必要であった。また介助は不要であるが、声かけや見守りが必要な方が 28%を占め た。

## (7) 入院形態

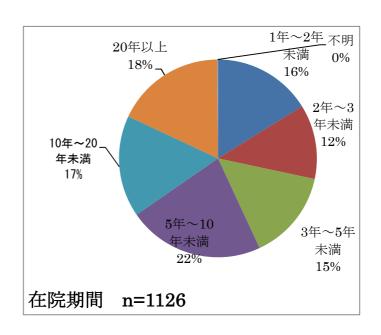
	n=1126
入院形態	
措置	1
医保	818
任意	307



医療保護入院が最も多いが、任意入院での長期入院患者も27%を占めていた。

(8) 在院期間

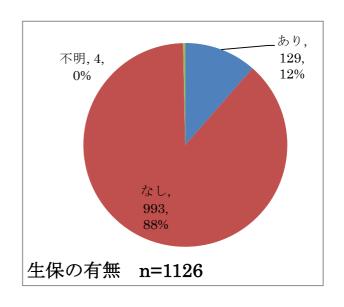
	n=1126
入院期間	
1 年~2 年未満	182
2 年~3 年未満	137
3 年~5 年未満	166
5 年~10 年未満	251
10 年~20 年未満	187
20 年以上	202
不明	1



5年 $\sim$ 10年未満の入院患者が 251名 (22%) と最も多かった。次いで 20年以上の長期入院患者も 187名 (18%) を占めていた。

## (9) 生保受給の有無

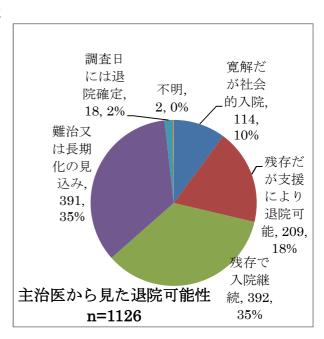
	n=1126
生保の有無	
あり	129
なし	993
不明	4



生活保護を受給をしていない方が全体の88%を占めた。

## (10) 主治医からみた現時点での退院可能性

	n=1126
主治医から見た状態	
 寛解だが社会的入院	114
残存だが支援により退院可能	209
残存で入院継続	392
難治又は長期化の見込み	391
調査日には退院確定	18
不明	2



「残存で入院継続」及び「難治又は長期化の見込み」が最も多く 35%を占めていた。 次いで「残存だが支援により退院可能」が 209 名 (18%)、「寛解だが社会的入院」114 名 (10%) であった。

## (11) 退院阻害要件

退院阻害要件は複数回答であった。阻害されていると思われる順に記載を依頼していた。

			n=1126
温险阻塞垂体		順位	
退院阻害要件	1	2	3
症状が不安定	540	26	16
病識がない	94	91	32
反社会的行動が予測される	20	104	22
退院意欲が乏しい	73	69	19
現実認識が乏しい	99	200	123
現実による環境変化への不安が強い	60	104	68
援助者との対人関係がもてない	4	26	32
家事などができない	10	55	37
身体疾患がある	45	38	37
家族がいない	27	63	78
家族から退院に反対がある	44	38	42
住まいの確保ができない	57	57	70
生活費の確保ができない	4	10	17
日常生活を支える制度がない	1	3	2
救急診療体制がない	0	0	2
退院に向けてサポートする人的資源が乏しい	5	26	17
住所地と入院先の距離があり支援体制がとりにくい	1	1	8
その他	36	17	13
阻害要件はない	3	1	1
無回答	3	197	490

							1		$\neg$								
合計 582	422	217	161	合計	184	168	124	120	102			140(		အ	1	П	ಸಂ
91	123	32	19	3	70	78	42	37	37			0		36	17	13	99
0.00	0 4		6		7		8	3	2			120	生なと発言され、ことを表して、ことでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	1	П	$\infty$	10
20	20	6	9	(2)	2.	9	38	38	5			0	退向サト人源 院けポナ的がプレー る資 だくし	2	56	17	48
① 540	66	94	73	(I)	27	27	44	45	10			100		0	0	23	21
	が強い	247										0	日活え度常をろがい生文制ない	1	3	2	9
K	かりの	K - 3		<b>表因</b>	いた		がある					80	生 め か な たい、 ない。	4	10	17	31
<b>本人要</b> <sup>定</sup>	をしい 語描 歩 化・	1	きしい	社会的事	そができた	_	記に反対が	55	きない		585	00	年 が ない ないな	57	57	70	184
が不安に	認識が	がない	意欲が気		いの確例	きがいなし	から退防	疾患がな	などがて			9	変 で が が が が ある が ある	44	38	42	124
二 二 茶	祖明	新 第	湖區		住ま	家族	家族	身体	州	422		001	※ が がない	27	63	78	168
										232		7	<b>単</b> を る る る	45	38	37	120
							24	168	20	161		200	※ とがさ でがっ いない	10	55	37	102
99	)	∞.							1	102			級 と と の を を を を を が め た の が さ め が が が が が が が が が が が が が が が が が	4	26	32	62
20	10			_							for I	0	退よ婚へ安院る家のがい課化を強い	09	104	89	232
作はなv その他	1>216	が丢しい	制がない	展かない	74/10/1	14/もう	対がある	がいない	患がある	できない あんない ががにして がんしい 適される	が不安定		題 職 数 込 と しい	66	200	123	422
阻害要	体制がと	人的資源	急診療体 十、7 生	女どの恵の集合を	の確決が	の 無 休 73×1	退院に反	家族	身体疾	事などが 人関係が と り り り り り り り り り り り ろ ろ り り り り り り	症状		最 窓 窓 え え え え い い	73	69	19	161
	もり支援	ートする。	7    教	五年 子 江 唐、	生活(	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	を族から			者との対 5環境変 23環境変 2社会的 2社会的			及名ができる。	20	104	22	146
	)距離がを	ナイナボ・	1	. <del>-</del> П			vIII			援助き 関院による			新設がないたい	94	91	32	217
	入院先の	院に向い								<i>™</i>			施状が不安定	540	26	16	585
	住所地と	型												$\bigcirc$	© ■	(C)	40
	5	ある   本人要因   ①   ②   ③     症状が不安定   540   26   16     現実認識が乏しい   99   200   123     10   104   68	5   症状が不安定	5 本人要因 ① ② ③   症状が不安定 540 26 16   現実認識が乏しい 99 200 123   退院による環境変化への不安が強い 60 104 68   病職がない 94 91 32   退院意欲が乏しい 73 69 19	本人要因 ① ② ③   症状が不安定 540 26 16   現実認識が乏しい 99 200 123   退院による環境変化への不安が強い 60 104 68   ない 94 91 32   退院意欲が乏しい 73 69 19   はら 社会的要因 ① ② ③	5 本人要因 ① ② ③   症状が不安定 540 26 16   現実認識が乏しい 99 200 123   型院による環境変化への不安が強い 60 104 68   素競がない 94 91 32   退院意欲が乏しい 73 69 19   6 社会的要因 ① ② ③   世部 33 44 91 32   はまいの確保ができない 57 57 70	5	5 本人要因 ① ② ③   症状が不安定 540 26 16   現実認識が乏しい 99 200 123   2 病職がない 94 91 32     6 大会的要因 ① ② 19     6 大会的要因 ① ② ①     6 大会的要因 ① ② ②     6 大会的要因 ① ② ③     6 大会的要因 ① ② ③     7 を表がいない 27 63 78     8 42 44 38 42	5   本人要因   ①   ②   ③     現実認識が乏しい   99   200   123     型院による環境変化への不安が強い   60   104   68     病職がない   94   91   32     協議がない   73   69   19     はよいの確保ができない   57   57   70     家族がいない   27   63   78     家族が心ない   44   38   42     月6   44   38   42	5	5	5	5 本人要因 ① ② ③   10 現実認識が乏しい 99 200 123   2 現際による環境変化への不安が強い 60 104 68   5 現際がない 94 91 32   6 社会的要因 ① ② ③   12 大会が大ない 57 57 70   5 大会が大ない 44 38 42   62 東市などができない 10 55 37   62 232 45 38 37   146 217 422 45 38 37   146 217 582 100 100 100 1200	5	5   66   25   25   25   25   25   25	5	5   66   16   20   26   16   10   20   30   10   10   10   10   10   10   1